

# 教員採用テストの性格

A Study on the examination for service to teacher.

乾 隆 次

## 序 論

恒例の教員採用テストを数旬の後にひかえた6月の末に、学生の皆さんから、受験対策についての講話を要請された。説明会は大学と短大に分けて実施したが、要項プリントは軽く150枚を突破した。時間がきても、食い入るような瞳で、ノートを取り、切実な質問を浴びせるなど研修意欲の旺盛さが身に迫ってくる。この殊勝な態度に直面しては、何かの役に立ちたいとの情熱がたぎってくる。そうだ。過去の採点者、出題者の体験から、短期の受験準備の必勝策をまとめ、盲点なり焦点を提起してみよう。信州鳥居峠の木の葉の上に落ちた一滴の雨水が、日本海側と太平洋側に分れるように、この小文の数旬が読者の生涯に少しでも裨益するところあればと念じながら筆を執ったものである。紙数に制限あり、で詳論は次回にゆずることにしよう。

## 本 論

### 第一章 準備対策の理想像

教職課程を選択するのは、教師に就職したいからであるが、そのためには免許状を取得しなければならず、現今では各地で実施される府県市の採用テストに合格するのが先決問題である。合格の最低基準は各教育委員会の事情により、年度毎の教科別の需要供給の変化によって難易があり、年度末欠員見込数の1倍半を採用予定者としても、全受験者の半数以上が合格する場合もあるし、総数の10%を割る時もあり得るので、教育行政の方針が変更になったりすれば、採用比率に増減が起ってくることも事実である。

学級の定員が1人減少しても、学級の総数が激増したり、毎週の授業時数が減少したために、教科担当に余剰が生れたりすることもまた常識である。ことに女教師のみを以て編成される家庭科などでは、結婚などによって多数の退職者が出る場合などは、合格者不足のために第二次の採用テストを実施することもあるので、出願手続や不合格通知などに頓着することなく、受験料無しの醍醐味に接するのも単調な人生にアクセントをつけることになる。有害な

## 教員採用テストの性格

サンプルにも魅力を感じずる青春のことであるから、自分の持つ底力を発揮する試金石としても、採用テストを受けるがよい。そこには無限の効果が秘められていると称してよいだろう。

最近の愚かな傾向として、研修の量を重視して、その質を無視することが指摘される。

修業年限の長短をもって、当人の学識の上下を推論するのが普通になっているが、要は学究意欲の濃淡が大切なのである。マンモス講義などで、教師の講話を忠実にノートし、それを素直に復原するよりも、友人のノートを借用して手軽に考查を受けたり、レポートを作ったりした方が良い成績を得たりすることもあるのである。

合格に向っての万全の策としては、巷間に販売されている教育学全集や代表的な参考書を読破して、それらの真髄をつかむことが第一である。それも岩波系の左翼傾斜のものから、右翼的国粋主義のものとか、中立系の文部省刊行のもの、国立教育研究所とか、中教審の委員のものなど多種多様であるが、受験学徒としては中正な体制側のものに心を打ち込むのが得策である。国家の意志に反抗するような思想を持った者を、教育委員会の命令を受けている採点官なり、試験官なりが、良く評価することはあり得ない。見解の相違とか、相互の対等な応待などが望めないのも自明のことである。だから問題作成者の意図する点を推測して答案を作成する技術が必要になってくる。それには過去数ヶ年間の既出問題を分析して、問題の形式面、内容面の定石を洗い出し、模範答案をパターン毎に作っておくのが適当である。教職課程として出題される内容は、教育哲学、教育心理学、青年心理学、教育社会学。教育行財政学、教育政策学、教育方法学、道德教育の研究など多方面にわたっているが、教育法規と西洋教育史は欠くことのできない分野であるし、すべての分野を総合的に系統立てたものとして教育原理が中核を形成している。

だから短時日の間に数千ページの大冊をまとめることは不可能に近いので、できるだけ簡約された教育学概論に、自分が印象を強くした内容を補記していくのが賢明である。

教育事典や思想史辞典、倫理学辞典も心理学辞典、哲学辞典、歴史辞典もすべて小辞典を使用するのが、圧迫感がなくて能率が上がるものである。詳細な事典や単行本を中途半端で投げ出すよりは、小型のものを縦横に研究暗記する方が征服感が充実するから、小心な律義者には、この方策をすすめた。

長鞭馬腹に及ばずとの諺があるが、問題を知悉していても、許された時間内に仕上げなければ失格となってしまう。規定の時間は30分とか、50分とか、90分であるから、筆の運びが遅い人は余程、文字の吟味をしないと失敗してしまう。正確に美しく書かれた半分の答解よりも、乱雑に書きなぐった一枚の答案の方が合格に近くなるのである。また、部分的に粗密のある内容よりも、万遍なく要解をしてある方が有利である。もし不十分な説明であっても、ポイントに触れておれば採点者としてゼロをつけるのは人情として許されなく、弱点は自分が頭の中で補充しながら4捨5入式の採点をしてしまう。それが美事な筆跡であれば、もっとも有効である。

不明の個所は、どしどし省略して前に進み不確実な内容は、教育術語を使用して、知識の貧

## 教員採用テストの性格

弱性を補ったらよい。一万枚に近い答案を短時間で処理するには、荒々しい神経を出してしまうのが実情であることを知って欲しいものである。

## 第二章 学生の現状

大阪市の教育委員会では4月の中旬に、新任の教員のために、オリエンテーションを兼ねて研修会を開いているが、在学時代に道德教育に関する講義を完全に修了した者は、1割にも充たないとのことである。難関突破の採用者でも、こんなにうすら寒い状況であるから、大学の研修の態様は大体推察されると言ってもよい。

実際採用テストの採点をしてみると、専門教養には力を入れるが、教科教育法はともかくとして、教育原理や教育心理などは高等常識の枠を越えない程度の者が多い。大阪市の配点では、教職教養が75点であるから、決してゆるがせにはできないのであるのに、初めから投げかけてかかっている者が多い。答案は50枚づつ綴ってあるので、殆んど白紙に近いものや、個条書で数個の文字が羅列されてあるに過ぎないのが連続するとき、不審に思って出身校を調査してみると、例年同じ大学であったりする。高名な学校や高学歴の人でも成績はまた別個なものであるらしく、自分が会得していることと、全く面識もない採点者に、自分を解らせることは同一でないことに想到すれば、決して粗略にすることは無いのであるが、現実には、しばしば意外なことに直面するものである。

近頃の青年は文章を書くのが苦手なのなのか、私信でも電話でもって代用するのが普通である。したがって、葉書文ですらも、時間をかけないと、したためる事が困難なのであるから、5分間で仕上げる文章は、せいぜい百字位になってしまう。実地のテストでは小論文とか、テーマの解説などが課せられる場合、三百か五百字位を限度として、時間の配分をしなければならぬ。

本年の5月に、本校音楽科第4回生に、60分を限って自由題でレポートを書いてもったことがある。テーマは中学生に5分間の説話をするとし、その材料を新聞等に求めなさいとして自由に構想をさせてみた。1週間以前に原稿用紙を持参するように予告をしておいたので、題目は未知であるが、心の準備はできていた筈である。字数は8百字から千字以内に制限してみた。ちなみに、大阪市の教頭テストの小論文には時間は30分とし、用紙は千字詰にしていたのを想起したからである。彼女達は在籍数の95%が免許状希望であり、採用テストの参考用に、現行の勤務評定用紙を交付したら、熱心に読みかえしている学生が多かったことから帰納して、準備の意欲の旺盛なことを示していると解している。題目を板書すると、予想もなかったとの怨声も聞かれたが、満員の合併教室は静寂な中でも、単位獲得への真剣な響きがこもっていたようである。

125人の出席者があったが数人は京阪電車の延着などで遅刻した旨答案に但し書きを附け、よろしく寛大な措置をと懇願しているのには微笑を禁じ得なかった。教師にも仏性ありと見て

## 教員採用テストの性格

取った心情は流石である。提出用紙 361 枚のうち、当女子大学用箋が84%を占めていた。また縦書のもの 74人で59%，横書51人，41%であるし，800字未満の短い文章は遅刻者をのぞき前者で5人，後者で6人あることから判断して，縦書きの方が筆記速度に於て優っているであろうか。

誤字脱字は減点するのが当然であるが，完全な答案は20%にも満たない状況では，形式的な面は度外視せざるを得なくなり，提出の時間帯を45分，55分，60分以上と区分したので，それら所要時間に依じて，採点時の満点を減少させて，内容を吟味した。

中には下書原稿を清書するのに時間が食われていた学生もあったり，結論が早く出てしまってストップしていた学生もあったり様々であった。

誤字でも代表的なものは矛盾。同情。弊害。達成。嫌う。全然。意識。新聞。周囲。生産。塾。一心不乱。意義。征服。面倒。夢中。茶碗。破壊。真剣。成績。水保。賠償。一般。特殊。余裕。萎縮。自慢。錯覚。責任。紹介。関心。報道。傑作。基礎。などがあり，当用漢字を誤って記することが多いのは，仮名書き文章が流行するのと同様さびしいことである。家庭の課題であれば，丁寧に作成するのであるが，最高学年でこの状態であることは現代の高等教育の反省点でもあるようである。要するに単位時間内の実力発揮は，地味な練習の積み重ねで初めて効果がある。論文を定期的に課して，添削指導でもすれば，形式的方面はめきめきと上達するであろうと確信される。

校長テストや教頭テスト，指導主事テストでも模擬試験を重ね，答案に朱を入れるなど個別指導をすることによって，彼等対象者の熱意が燃え，それによって実力が倍加するのは，夙に実験ずみの事であるから，女教師の進出時代に即して，早急に着目すべき緊要なことである。

しからば，次に内容の点はどうかというと，過去の短大女子学生によって調査したところでは一般教養特に自然科学について盲点があるようで，高校の入試問題をそのまま，同時間，同環境でテストしてみたらよく判明するであろう。相愛中，相愛高と進み，8年乃至10年を同じ学園で育った学生と，公立中学，公立高校と進んで，当大学に入学した学生とを比較して，大乗的な見地から，その由って来る所以を分析するのも興味のあるテーマである。

さて，かかる出身校には関係なく前記学生群の所論を区分してみると，次の類型のどれかに帰着することが判明する。

|           |     |
|-----------|-----|
| 友情のある生活態度 | 20人 |
| 自殺は愚行である  | 20人 |
| 受験地獄や塾教育  | 16人 |
| 音楽教育について  | 16人 |
| 公害について    | 14人 |
| 性問題       | 10人 |
| 同和など教育問題  | 10人 |

## 教員採用テストの性格

|      |    |
|------|----|
| 物価問題 | 9人 |
| 社会問題 | 9人 |
| その他  | 1人 |

以上のテーマの中で、一番熱の入っているのは自殺防止の事項で、人は死んだつもりで壁をぶち破って進むべきであると解している。同情的なのは、高校受験で自分の苦心談などを述べている。怒っているのは PCB などの公害問題と、底無しの物価上昇に対する為政者への憎悪であり、憂えているのは、大学で研修している音楽との断絶について、解決する手段がわからないという点である。

これなどは、府立の看護学院の学生が、精神異状者の看護の仕方の理想像と、自分達が医師と比較してどれだけ、低劣な待遇を受けているかという不満を並記しているのと好一対をなすもので、生活環境が思想形成を左右することの実例であろうか。

### 第三章 努力の焦点

前章で、受験準備について、いかにあるべきかを述べ、現在、いかにあるかを説明したのであるから、次には当然の帰結として、いかに成るべきか、いかに為すべきかが問題になっている。

そもそも人間は賢愚にかかわりなく、精力には一定の限界があり、それを超えると健康をそこねてしまう。昔、文部省では中等教員の検定試験という制度があり、全国の好学なれど財力に恵まれない教員の登竜門であった。

完全に独学で、検定委員の（斯界の碩学達）著書を読破し、数千ページを征服して、何年もかかって合格への道をたどったものである。

僅か半日のテストに成功し、口述試問を突破すると、4ケ年乃至6ケ年の高専とか大学卒の資格が与えられ、中学校とか高等女学校に赴任すると、師範卒の同僚より数ケ年早く上位の待遇を受けるなど、栄誉と実益が一致する実力尊重の制度であったから、俊秀がこの文検に殺到するの無理はなかった。でも精力の濫費をした篤学の士は吐血をしたり、ノイローゼに罹ったりして、合格の喜びに浸る間もなく他界する者が多かった。ここに、労少くして、功の多い経済的準備技術の必要が生れてくる。当人にとっては、試練突破の歓喜はあろうが、残された家族はたまったものではない。だから、あくまでも体力の限度を考え、優秀な成績よりも、最低の成績でもよいから、合格圏に入ることが先決問題である。ちなみにテスト問題作成のいきさつは次の通りである。大阪府市のように7月末頃にテストが実施される教育委員会では、4月の中旬頃に作成委員がきめられ、採点も統計も一任される。約2ヶ月の間に問題を完成しなければならない。大体として主任級の指導主事が、それぞれの専門に応じて問題作成にとりかかる。自然科学、社会科学、人文科学などに分れる一般教養が75点、原理、心理、法規、社会学、方法学など広汎な範囲に及ぶ教職教養が75点、教科教育法を含む専門教養が200点、合計

## 教員採用テストの性格

350点満点として、総合点数の多い者から、教科毎の需要供給関係によって、採用予定者を決定するが、得点の切れ目によって若干の人数増減がある。小学校では全科合同であるが、来学年度は新一年生が今年より30万人激増なので、競争率は例年になく低下するであろう。また教育程度の上昇につれて、小学校でも音楽、体育、美術、家庭科などでは専科教員が設置され、本年度は府下で7名であったが、今後現場の要請に応じて専科制が尊重され、チーム、ティーチングを容易にさせるであろう。各府県によって受験生の年令とか、素質に差異があるので、運不運も考えられる。

さて、問題作成の責任者がきまり、日程が発表されると、ぐずぐずはできない。役所に滞りながら管轄内の事務をとったり、受持地区の事故や人事相談、研究会の助言、学校訪問、指導主事会議、管外出張、担当教科の論文執筆、各種の行事参加のための時間等を割くと、残りの余暇は僅少になってしまう。しかも現場や受験生の母校の大学では、鶴の眼、鷹の目で鋭い批判を浴びせようと、待ち構えているので愚問、難問はさしひかえねばならず普遍妥当な明白な答の出るものに限られているので、その骨の折れること、教職課程でも自分の不得手な分の不得手な分野は省略とし、得意な新しい問題を作って、世間に笑われない様に苦勞するようになる。恩師の著書を通読して、昔の学生時代、つまり受験生と同じ年頃の折に感激した個所を拾ってくる。数冊の教育原理や教育学概論から共通点を探ってみる。巻末の索引を開いて、過去数年の既出問題をチェックし、学説が多岐になったり、注解を要するものは、さっさと捨て、尊敬に値しない著者や反動的な偏向学風の感ぜられるものは敬遠する。教育史なども西洋教育通史などが重宝であるし、小百科辞典に記載されてあるのなどは無難であるが、あまりに平易なものばかりでは優劣の差がつかないので、本屋を歴遊して、新刊のコーナーから、新教育思潮のものを探し、目次を読みとって設問を作る参考にするし、教育学の諸雑誌の特集号から目玉の質問を組み合せたりする。教育委員会の図書館のものを材料とすると安心であるし、文部省推せんや内閣の印刷局で刊行されたものから引用すると完全になる。

電車の中で見た新聞や、読み捨ての週刊誌から、立派なテーマを取ることできる。

但し、府市の昨年度、一昨年度の問題と重複しないようにと心掛けるが、同和問題など現在脚光を浴びている分野は連続して課してもよいので、出題の傾向を変化させることによって教職教養を担当している大学教官の頭を変えることも有意義であると信ぜられる。

70日の問題作成に対処して、解明の準備も10週間で間に合せるのが当然である。

詰め込み教育は悪いというが、教職体験のない若人にとって記憶は最大の武器である。

記憶という点の連結によって知識が生れ、知識という線の連合によって、知恵という面が生れてくる。そして、かかる多面が組み合わせられて立体化されて性格が生れ、性格が各種の刺激によって洗練されて人格にまで止揚されると考えると、些細な記憶でもライブニッツの単子と同様、思考の要素を形成することになる。

## 教員採用テストの性格

でも記憶は競技の直前のウォーミングアップと同様で、あまり間を置くと忘れてしまうから、平生から知識を系統的に整理し、類概念から種概念に下降分岐するように、図式化しておくのと有利である。視覚型の者でなくとも、自分の創意工夫になる図表は忘れるものではない。少しのヒントによって、解答の全貌が表明されることも珍らしくない。日々の新聞の教育記事でも要点をしぼって、抄記しておく、それらが潜在意識となり、知識の転移作用によって、思わぬ拾いものになるものである。コナント博士やブルバッカー教授が来朝すると、すぐに講演集が出るし、単行本が売り出されると、新奇を喜びお教育界の話題になる。そうなると、指導主事はじっとしていない。人より珍奇なことを自慢にするのが、底辺のエリートの特権とすると、採用テストで無垢な若人に一泡吹かせたくなるのが人情である。

だから学生諸君は、教職課程の準備としては教育史を含めて、せいぜい200題程のテーマを300字位にまとめておけば事足りるであろう。大部の全集物などは、とても読破できないから、就職後の現職教育まで待てばよいのである。一般教養は高校程度でよいが、人物史などは教育史と重複していることがあるので倫理社会のテキストを通読しておくのと便利である。

戦前には中等学校の取り扱いを受けていた師範学校でも、上級生は教育関係の参考書は30冊は持っていたし、専攻科の生徒は150冊位は誰でも所有していたものであるが、現在の大学生は、どの程度の蔵書があるのだろうか。教科書と教科教育法、学校から渡されるパンフレット数種に、教育六法、メモ用ノート数冊、学習指導要領などが関の山とすれば、出題者の恣意による小さい問題などは、誰もがゼロであるから、決して気にかけることはない。大綱をつかんで、明快に表現することが捷徑であると言える。

## 第四章 重要問題の粹

### A 教育法規

1. 憲法前文 そもそも国政は………国民がこれを享受する。
2. 憲法前文 日本国民は、恒久………生存を保持しようと決意した。
3. 憲法第14条 すべて国民は………差別されない。
- ◎4. 憲法第26条 すべて国民は………ひとしく教育を受ける権利を有する。
5. 憲法第96条 この憲法の改正は………賛成を必要とする。
6. 教育基本法前文 われらは個人の………徹底しなければならない。
- ◎7. 教基法第1条 教育の目的
8. 教基法第2条 教育の方針
- ◎9. 教基法第3条 教育の機会均等
10. 教基法第4条 義務教育
11. 教基法第6条 学校教育
12. 教基法第9条 宗教教育

教員採用テストの性格

- 13. 学校教育法第6条 授業科の徴収
- ◎14. 同 第9条 校長, 教諭の欠格事由
- ◎15. 同 第11条 学生, 生徒等の懲戒
- 16. 同 第28条 職員
- 17. 同 第36条 中学校教育の目標
- 18. 同 第71条 盲聾養護学校の目的
- 19. 学校保健法第12条 出席停止
- 20. 地行法第23条 教育委員会の職務権限
- 21. 教育公務員特例法第19条 研修
- 22. 同 第20条 研修の機会
- 23. 地方公務員法第30条 服務の根本基準
- 24. 同 第32条 上司の命令
- 25. 同 第36条 政治的行為の制限
- 26. 同 第40条 勤務成績の評定
- ◎27. 教育職員免許法第5条 授与
- 28. 児童憲章前文 われらは……定める
- 29. 国家公務員法第7節 服務
- 30. 期待される人間像第4章 国民として

B 人名 過去数年にさかのぼり, 全国の各都府県のテストに出題されたものを頻数の多い順に列記しよう。歿年順に表をつくり, 主要業績, 主要著書を記入しておく, 活動状況とか, 教育界への貢献度がわかる。

- 31. デューイ。ヘルバルト。ペスタロッチー。ルソー。フレーベル。ソーンダイク。パブロフ。カント。ケーラー。ブルーナー。キルパトリック。ヘーゲル。コメニウス。シュプランガー。ピネー。ピアジェ。福沢諭吉。森有礼。マルクス。ナトルプ。ケルシェンシュタイナー。レヴィン。エレンケイ。トルストイ。ジェームズ。アダムスミス。スペンサー。キルケゴール。パスカル。ソクラテス。フロイド。オルセ。クルプスカヤ。石田梅巖。元田永孚。広瀬淡窓。デール。ロック。ライプニッツ。

C 道徳教育

- 70. 道徳教育の目的
- 72. 同和教育
- 73. 特設道徳
- 74. 生活指導
- 75. カウンセリング
- 76. ガイダンス



77. 性教育

D 教育心理学

78. 知能指数

79. 試行錯誤

80. 条件反射

81. ソシオグラム

82. ロールシャッハ・テスト

83. 問題解決学習

84. 学習成立の条件

85. ギャング・エイジ

86. 学習の転移

87. レディネス

88. モティベーション

89. 知能偏差値

90. 学習評価

91. 心理テスト

92. 精神薄弱児

93. 成就値

94. 性格

95. 成長加速現象

E 教育原理

96. 教育課程

97. プログラム学習

98. チーム・ティ칭ング

99. プラグマティズム

100. 懲戒

101. 教育制度史

102. 教科カリキュラム

103. 学級経営

104. 一斉指導

105. 系統学習

106. 実存主義

107. 特別教育活動

108. 学校行事

## 教員採用テストの性格

109. 相対評価
110. 指導要録
111. ティーチング・マシン
112. 単元学習
113. バズ学習
114. 進歩主義
115. 分団指導
116. ドルトン・プラン

以上が頻数の多い順に羅列したものであるが、主要な参考書の中で、最も解り易い中心書をひもといて、目次の肩に朱印をつけていくと系統的に、重要度を計測することができるので、116枚のカードに圧縮した解説書を作っておけばよい。但し、次のテスト期間がすめば、全然別個な新顔のテーマが添加されて、順位が変動するであろうが、その軌跡をたどると、日本の教育界の動向が察知できるであろう。

ここで留意しておかねばならぬのは、参考資料の価値である。史的展望とか、原理原則とかは、制作の時期に関係なく信用してもよいが、法規類とか、制度の解説は最新のものを座右に置き、改訂版でないものは使用しないのが安全である。私等も恩師や同窓の畏友の著書は愛読するが、その対立者や対抗学風には生理的に増悪を感じるので反省しているものの、日本人の判官びいきを狙って、体制攻撃の売文をする学者面の人々の著書は、図書館利用とか回覧制にして、自分の書架には並べないことにしている。

辞書類では協同出版社の教育心理学小辞典が手頃で幼児心理学も児童心理学も心理学全般、教育学全般が含まれている。概論とか要説とか汎論を通読してから、関係の項目をまとめるのが良い。教育学は山下幸雄編の法律文化社のものが簡易であるが、 $P306$ の列位相関係数の公式に  $6\sum D^2$  を  $5\sum D^2$  とするなど大きな誤植があり、人名の綴りなどにもミスがあるが、心理学、倫理学、教育史（日本）(支那) など広い範囲を取材し親切に詳解してあるので軽便であるし、共に最新刊で700円前後であるので手頃である。尚、補助としてNHK大学講座の教育原理や心理学のテキストを一括して読破するのも、経済的な点と時間的な面で有効である。勿論もっとも思想的なのは、出題者と予想される委員の愛読書や専門の分野、講習会の演題、指導主事会議の話題から、出題傾向にヤマをかけることであろう。もし適中しなくても、自分の理解度がはっきりするし、受験準備の期間に吸収した新知識は、教育実習に際して、多大の威力になるであろう。

結 論

頃日、世人の血を凍らせた赤軍の虐殺事件に高等看護学院の若い女性が関与していた。

現状打破の猛烈な敵愾心に恐怖を感じていた私が、ふとしたことで、彼女達の必修教科たる教育学の指定テキストを熟読する機会を得た。

その中に「戦争を効果的に遂行するための看護とか教育は職業の誇りを傷つけるものである」（P4）

「ペスタロッチはフランス革命政府の名誉市民であり、スイス革命政府の情報宣伝担当者であったのに、貧児の味方としての一側面だけを強調する教え方が通用していた」（P2）

「民衆の学ぶための自由は、学びたくないことを学ばない自由でもある」（P146）

「期待される人間像」がどんなにりっぱな内容のものであろうと、政府が人間の道徳的資質について要望することは、明らかに越権であり、政府はけっして自ら道徳の教師としてふるまうべきではない」（P242）という文章があるなど、全巻を通じて、看護婦が禁欲的な奉仕から脱却し、望ましい政治のあり方に対して絶えず検討を加えていなければならないと強調している。この増悪感をひそませたテキストが社会革命の起爆剤になったのではないかと疑っている。思想と行為の間のプラスの相関を信じて、この小論を擱くことにする。

(本学助教授)